

東海体育学会第 65 回大会のご案内

実行委員長 中村 哲夫（皇學館大学）

このたび、東海体育学会第 65 回大会が皇學館大学において開催されることになりました。皇學館大学は、神宮学園所の林崎文庫に「皇學館」が開設された明治 15 年を開学のルーツとしています。明治 36 年に内務省所管の専門学校に、また昭和 15 年には文部省所管の官立大学として神宮皇學館大学となりました。昭和 21 年の GHQ 神道指令による廃学を経て、昭和 37 年に再興され、現在では文学部、教育学部、現代日本社会学部の 3 学部が設置されています。

さて、スポーツ界では 2020 東京オリンピックの開催をめざし、現在、各方面でその準備が進んでいます。一方、学校体育の分野では本年 3 月末に新しい学習指導要領が公示され、小学校では平成 32 年からの全面実施、その後年次的に中学校および高校の実施が計画されています。このように、私たちの専門領域であります体育・スポーツ界にとって、今、大きな節目を迎えようとしています。その中で、私たちに求められる役割も大きくなってきているのではないのでしょうか。

今回のシンポジウムでは、「2020 東京オリンピックへの挑戦ーアスリート、指導者、研究者そして市民の立場からー」とのテーマの下、3 年後に差し迫った東京オリンピックを題材に、オリンピック等のビッグ・スポーツイベント開催の意義を再考し、一市民（国民）にとってできること、すべきことは何かを考えていきたいと思います。

実行委員一同、多くの会員の方々にここ伊勢の地に足を運んでいただき、充実した研究交流の場を提供したいと考えています。多くの会員の皆様のご参加をお待ちしています。

東海体育学会第 65 回大会 開催概要

【期 日】平成 29 年 10 月 22 日（日） 午前 9 時 30 分（受付開始）～ 午後 5 時 30 分

【会 場】皇學館大学（6 号館、7 号館）

「公共交通機関」

●名古屋より伊勢市まで

近鉄特急（鳥羽・賢島行き、宇治山田駅下車、約 1 時間 40 分）

JR 快速みえ（鳥羽行き、伊勢市駅下車、約 1 時間 50 分）

●伊勢市駅・宇治山田駅より大学会場まで

徒歩 約 20 分（宇治山田駅より）

三重交通バス内宮前行 10～15 分

「自家用車」

駐車台数に限りがあります。できるだけ公共交通機関をご利用ください。



【参加資格】学会員はどなたでも事前申込無しですべての企画にご参加いただけます。学会委員でない方も、当日受付で『当日参加会員』の手続きをおこない、参加費 1000 円をお支払いいただくことで、一般発表とシンポジウムにご参加いただけます。また、シンポジウムは一般公開企画となりますので、どなたでも事前申し込み及び参加費なしで参加することができます。

【研究発表の申込方法と抄録提出の締切】

申込書・抄録の提出締切り：平成 29 年 8 月 11 日（金曜日）必着

※研究発表申込書の作成には、学会ホームページ掲載の「一般研究発表申込書フォーマット」を利用して下さい。抄録の作成には、学会ホームページ掲載の「抄録フォーマット」を利用してください。申込書と抄録を期日までに大会事務局へ提出してください。詳細は「演題募集要項」をご覧ください。

【プログラム】

10月22日(日)

9:30~	受付		
10:00~12:00	一般口頭発表	ポスター掲示	企業展示
12:00~13:00	理事会 昼食・休憩		
13:00~14:00	総会(学会長挨拶 ほか)		
14:10~16:10	シンポジウム(一般公開)		
16:20~17:30	一般ポスター発表		
17:30~	閉会の辞		

※大会の日程・プログラムは、一般研究発表の演題数などにより変更されることがあります

【シンポジウム】 **テーマ** 2020 東京オリンピックへの挑戦 –アスリート、指導者、研究者そして市民の立場から–

概要 オリンピックをはじめとするビッグ スポーツ イベントは、私たちのスポーツへの関心を高め、その成功は、私たちにとってさまざまな利益・恩恵をもたらしてくれる。3 年後に開催される 2020 年東京大会に向け、本シンポジウムでは、現役のアスリート、指導者・アスリートをサポートする者、研究者それぞれ異なる立場から、オリンピックの可能性や東京オリンピックの成功に向けた提言をしてもらい、オリンピックを題材に、ビッグ スポーツ イベントの意義について再考する。また、私たち一市民(国民)はオリンピックの利益・恩恵を受けるためにできること・すべきことは何かを考えるチャンスを提供する。

シンポジスト

衛藤 昂 氏(鈴鹿 AGF 所属、リオデジャネイロオリンピック代表選手・陸上高跳び)

リオデジャネイロオリンピックでの経験や、それに至るまでの経験から得た課題(自分自身の課題だけでなく、陸上競技界・アスリート界における課題)や可能性、将来性、東京オリンピックの成功に向けて、アスリートの立場から提言をしてもらう。

佐藤 武尊 氏(皇學館大学 教育学部 助教)

リオデジャネイロオリンピックでは、全日本柔道連盟 強化委員会 科学研究部としてチームに帯同した。そこでの経験から得た課題(自分自身の課題だけでなく、柔道界・アスリート界における課題)や可能性、将来性、東京オリンピックの成功に向けて、アスリートをサポートする者・指導者としての立場から提言をしてもらう。

澤田 亨 氏(国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 健康増進研究部室長)

今回のようなテーマでシンポジウムが開催される場合、運動生理学やバイオメカニクス、コーチング学系の研究者、またはスポーツ社会学や経済学などの研究者による講演が一般的であるが、今回は、疫学研究の研究者から見たオリンピックの可能性や将来性、東京オリンピックの成功に向けて、疫学研究の紹介も併せて提言してもらう。

【東海体育学会第 65 回大会事務局】

皇學館大学 教育学部 片山靖富

〒516-8555 三重県伊勢市神田久志本町 1704

電話・ファックス 0596-22-8148 (研究室直通)

電子メール katayama@kogakkan-u.ac.jp

東海体育学会ホームページ <http://www.tspe.jp/>